

2022年6月3～5日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

表層（深度5m）の水温は、いずれの地点も12℃前後でほぼ平年並みとなっています。深度10～40mの水温は概ね5～12℃台で、St.08とSt.36を除いて平年に比べ1～4℃高くなっています。一方、深度50m以深の水温は湾外のSt.05、St.08では平年に比べ1～3℃低く、その他の地点ではおおよそ平年並みとなっています。

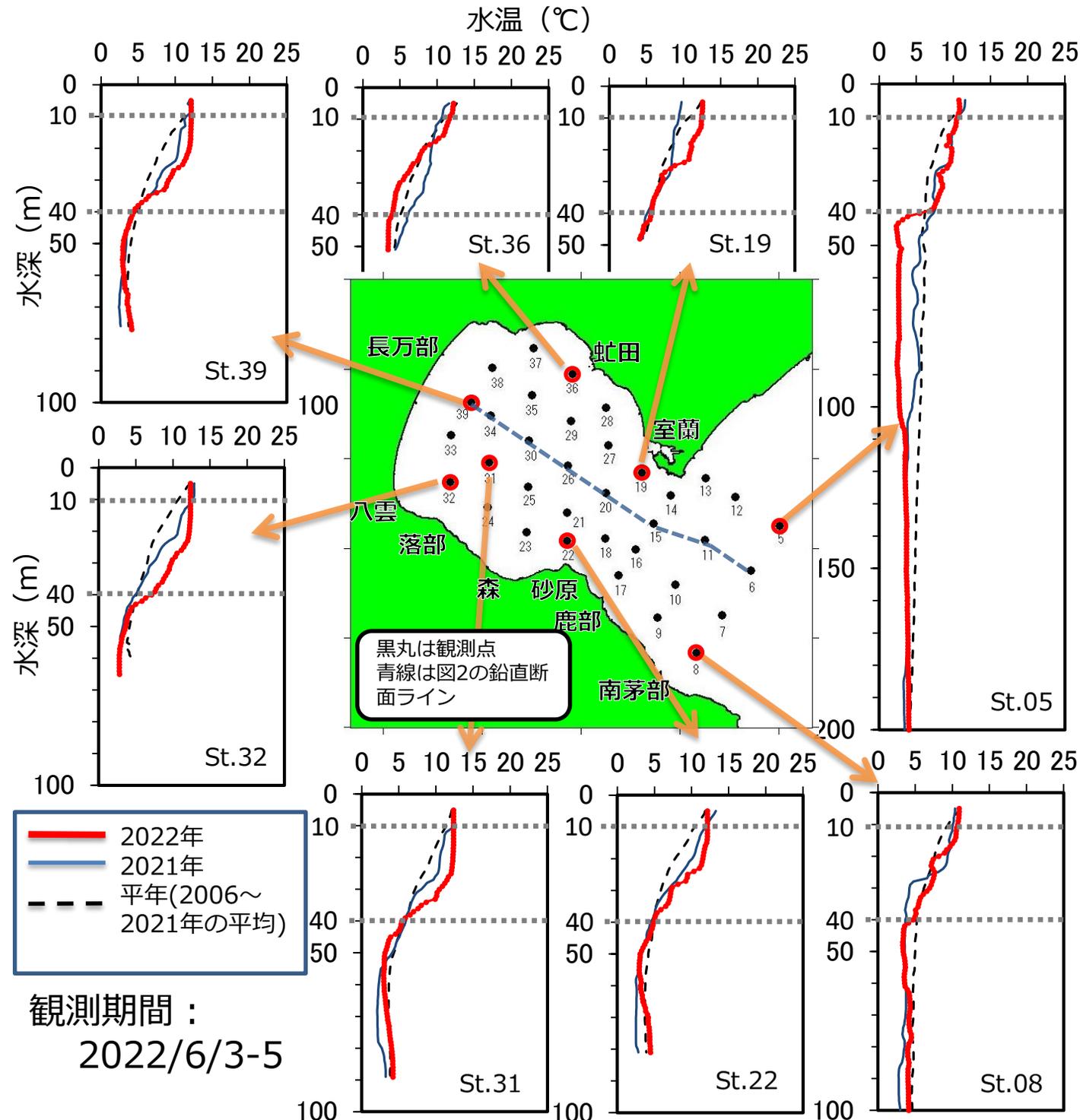


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

観測期間：
2022/6/3-5

【水温，塩分の鉛直断面分布…昨年との比較】

今年の湾内の深度20m以浅は水温が12℃以上で，昨年と比べて1～2℃高くなっています。また，湾内の深度40m以深の水温は，昨年と比べてやや高くなっています。湾口部から湾外の水温と塩分は概ね昨年と同様であり，津軽暖流水（水温6℃以上，塩分33.6以上）はまだ出現していません。

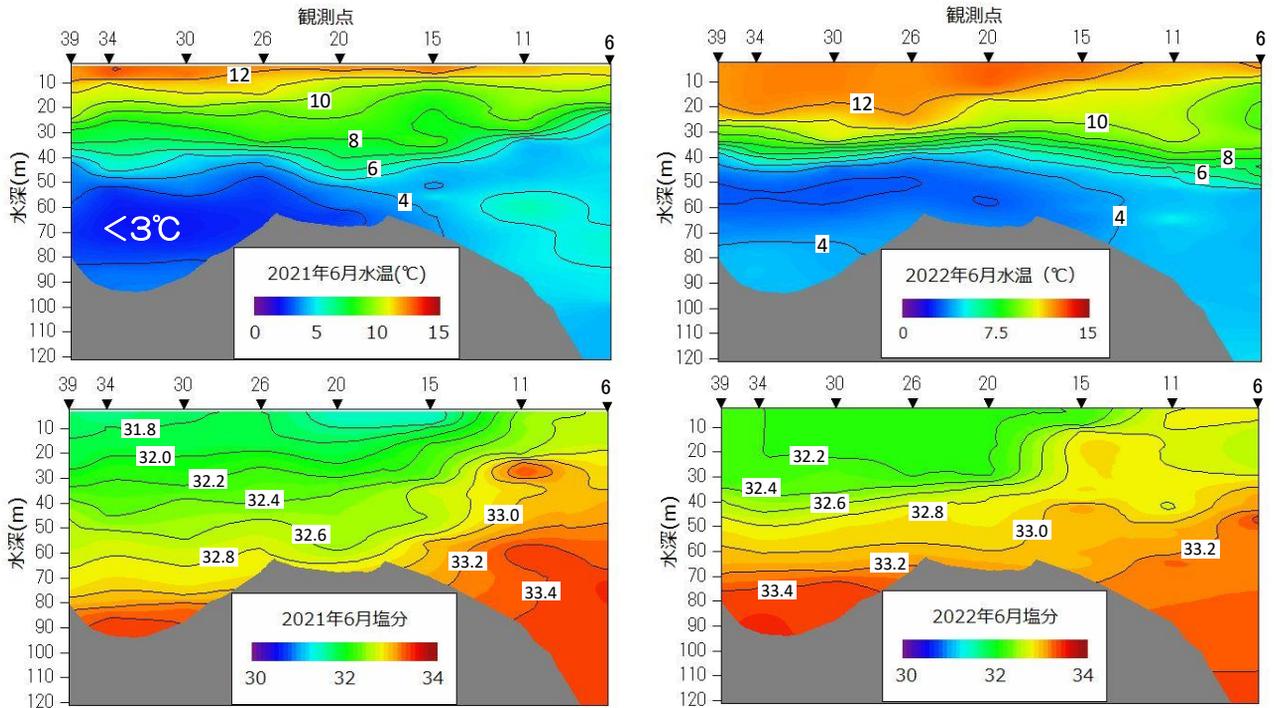


図2 水温・塩分の鉛直断面図（左：2021年，右：2022年）
鉛直断面の位置は図1の青破線を参照 上部の▼は観測点

【溶存酸素の分布】

海底上5mの溶存酸素量は，2.8～7.4ml/Lであり，湾奥部で貧酸素水（3.0ml/L以下）が見られました。4.3～8.5ml/Lであった昨年の6月と比較すると，全体的に溶存酸素量は低くなっています。

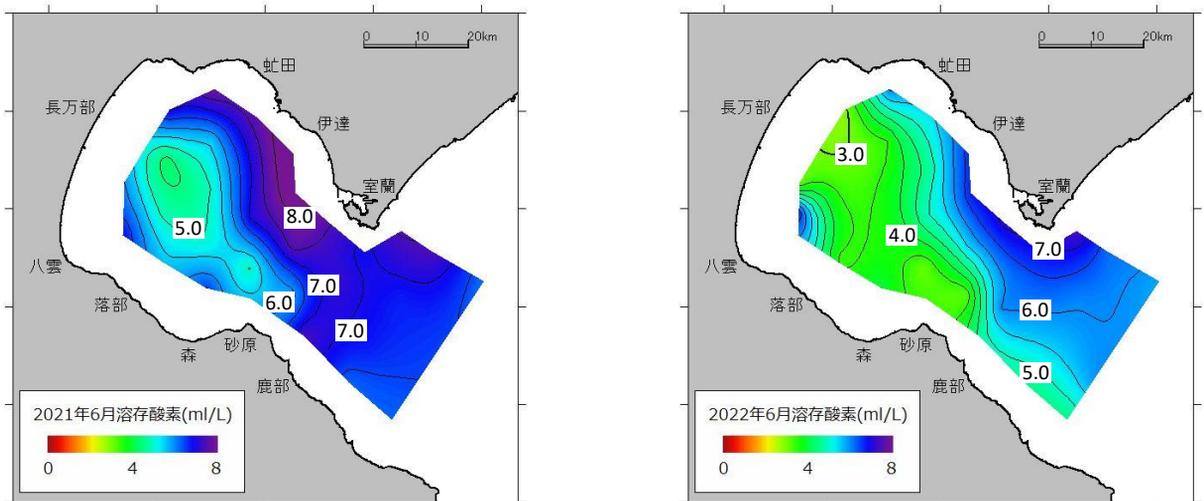


図3 海底上5mの溶存酸素の分布（左：2021年、右：2022年）